

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073500284		
法人名	医療法人恵真会		
事業所名	グループホームめぐみ (Aユニット)		
所在地	福岡県糸島市志登567番地1		
自己評価作成日	平成25年6月1日	評価結果確定日	平成25年8月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

グループホームめぐみでは、職員が2ユニットを行き来する事で職員全員が入居者・家族と馴染みの関係になっている。又、入所者一人ひとりに対して、ホーム全体で意見を出し合い、家族へ相談し状況の変化に応じた対応をおこなっている。入居者の個性・能力を大切に生きがいを持って、安心した生活を送れるように支援させていただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&amp;ji_gvsvocd=4073500284-00&amp;PrCd=40&amp;VerSi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&amp;ji_gvsvocd=4073500284-00&amp;PrCd=40&amp;VerSi_onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年6月27日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームめぐみ」は、唐津街道から入り、周囲を田んぼに囲まれた自然豊かな土地にある。事業所からは糸島富士とも呼ばれる可也山が雄大に臨め、夕陽の沈む時間は周囲の田んぼが赤く染まり絶景である。当初からの理念をもとに、開設から10年を越えて、時間をかけて地域や行政との関わりを積み上げており、今ではその信頼も非常に厚い。2年前からユニットを問わず、全職員が全利用者に関わるようにし、結果、認知症介護のレベルもあがり、意識をもって個別的なケアが行えるようになった。併設の老健なども合同で勉強会を年に3回開催している。法人主催の「あじさい祭り」は利用者とも一緒に参加して、地域に開放しており、バザーや出店なども好評で地域ボランティア、学校などの協力のもと、毎年の恒例行事として大々的に行っている。季節ごとの行事も趣向を凝らし、雑祭では入居者が衣装を着たりして楽しみ、施設の環境もさることながら、職員と入居者の明るさが事業所全体にあふれていた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関と職員室に理念を掲示し、毎朝申し送り時に唱和している。実践につながるよう、取り組んでいる。	職員皆で作った理念は事業所内や玄関にも掲示しており、それを基に毎月接遇目標も設けて、各職員も振り返りをしている。7、8年前に地域との関わりを踏まえて理念を見直しており、今では地域との関わりも深く取り組んでいる。理念をもとに自発的に意識をもって、「笑顔を大事に皆がよりそう」ケアが行われていた。	職員も暗唱できるほどに、理念が共有されており、日ごろのケアにも活かされているが、より具体的な行動にも落とし込んでいくために、行動指針や月の接遇目標とも関連付けていくことなどが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園との交流を定期的に行っている。校区の文化祭に作品を出展し、見学に行っている。隣接する老健との合同行事「あじさい祭り」を通して地域の方々と交流している。	近隣の公民館には利用者の作品を出展し、パンフレットやお便りを置かせてもらっている。地区の保育園の園児が来たり、小学校との交流や、オカリナ演奏の慰問などの来訪もある。事業所の発行する「めぐみ便り」は年4回ほどポストイングなどでも地域に配布しており、情報発信を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に「めぐみホーム便り」を地域に配布し、めぐみの日常生活を伝えている。校区の公民館の館長、民生委員の方に運営推進委員になっていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度行っている。家族会や敬老会、避難訓練、保育園児との交流等に参加してもらい、意見をいただきサービスの向上に活かしている。	会議の参加者には、敬老会や忘年会にも招待しており民生委員や公民館長も参加されている。家族会と合同開催することもあり、活発に意見が出され、参加者からアドバイスを頂くこともあった。行事報告の写真などを含め、情報開示の姿勢は積極的であり、議事録も公開し、行事との同時開催をすることも多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題が発生した場合は、市役所を訪問したり、電話で相談している。市の介護保険課の担当者に運営推進会議の参加を依頼している。平成24年6月、市からの依頼で、九州厚生局の現地指導を受ける。	事業所の「あじさい祭り」は市にも協力をしてもらっており、以前国が行った視察の際には、市と協力して受け入れたこともあった。担当課とは事あるごとに電話や訪問で相談を行っており、敬老会などの行事に招待もしている。市からの信頼も厚く、入居者の紹介を受けることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成している。研修に参加し、勉強会を行い意識向上に取り組んでいる。玄関は、入所者の安全の為、家族の希望もあり施錠している。	玄関施錠はされているが、安全面に配慮して、以前から家族との協議の結果で行っている。リビングのペランダからは自由に出られ、見守り付き添いで外出できる。法人全体や事業所単体でも毎年、拘束に関する勉強会を行い、抑制防止対策委員会も組織して、情報共有や方針の周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成している。研修に参加し、勉強会を行っている。新聞等の関連記事を掲示し、理解を深めている。		

H25.A自己評価(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、勉強会に取り入れて学んでいる。家族へは、入居時に資料を渡して説明している。	対象となるケースはないが、入居時には各制度について、事業所で作成した資料を用いて説明をしている。昨年の家族会では制度についての勉強会も行った。年に1回は事業所で勉強会も開き、職員の理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面接の時に、十分に話し合うようにしている。料金改訂時は、口頭、文章等で説明し家族会でも説明を行った。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、家族への無記名アンケートを行っている。家族会、運営推進会議、職員会議で報告し、それを活かせるようにしている。又、意見箱も玄関に設置している。	毎年、家族会を開いたり、家族アンケートも配布しており、それによって、職員の気付かなかった点などの意見を頂いて改善につなげてきた。外部評価アンケートの回収率も高く、信頼関係が作られている。個別の要望も職員会議で取り上げ、迅速に対応しており、改善報告は口頭で行い、アンケート結果も開示している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を行い、意見を出し合い話し合いを行なっている。皆の賛同があれば、すぐに実行している。	パートも含めて全員が会議に参加し、入居者の状況報告や意見を話し合っている。これまでもバザーの収益を行事に活用することなどに活かされてきた。日頃から相談しやすく、法人も意見に対して真摯に対応している。2年に1回程度、個別面談を施設長と行っているが、それ以外でも相談の機会が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員の働きやすい職場環境作りに努めている。職員個々の得意分野を活かした役割分担に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用は本部が行っているが、ホームの主任・管理者の意見を重視している。職員の特徴(園芸・お菓子作り・ドライブ等)を活かせるように、担当を決めレクレーションにも取り入れ、職員と入居者が共同で行っている。	幅広い年代や性別の職員が協力しており、法人内でも本人の希望によって異動なども流動的に行っている。ユニット間での動きも流動的に行い、夜勤体制も働きやすく改善されている。外部研修などの案内も行い、無資格で入って、経験を積んで介護福祉士を取得した職員もいる。休憩時間や休憩場所、シフトの希望も取り入れており、職員も定着して勤めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加し、勉強会に活かしている。毎月接遇目標をたて、目標に対しての反省を行っている。入居者の人権を尊重する気持ちで接している。	年に1回程度、県や市の外部研修にも参加し、報告研修も行っている。人権に関しても資料を使って学習し、職員の理解を深めている。月間の接遇目標を通して、入居者に対しての接し方にも注意を払っている。	

H25.A自己評価(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加出来るよう努めている。職員個々と個人面談を行い、直接意見を聞く機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会の集まりに参加し、情報交換、問題点の共有、研修の実施等、ホーム間の交流に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず見学をして頂き、ご本人と御家族の要望を聞いている。安心して生活していただける様ケアプランに反映させている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に詳しく話を聞き、家族の状況を理解するようにしている。家族の状況に合った対応を行なう様にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を受け止め、地域包括支援センター、行政と相談し対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作りや収穫の時期など、職員が知らない事を教えていただきながら、共に作業をしている。教えて頂ける存在としての関係を大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度めぐみ便りを郵送し、日常の様子を伝えている。御本人の状態の変化等は、直ぐに伝え相談している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ドライブの時に馴染みの場所を見ていたりしている。馴染みの方の面会の際は、御茶をお出ししてゆっくりと過ごして頂ける環境を提供している。	入居時のアセスメントや面会時、日常的な会話から情報を引き出し、利用者の以前の勤め先近郊への訪問や、慶弔ごとの訪問などの支援も行っている。少数でのドライブで自宅近郊に行ったり、行きつけの美容室にも訪れ、希望があれば外泊支援も行う。支援の難しい場合は家族とも協力して連れ出してもらうこともある。	

H25.A自己評価(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や相性を観察し、安心して過ごしていただける様、食堂の座席や散歩に行くメンバーの配慮を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で契約が終了された方にも出来るだけ御見舞いに行っている。隣接する老健に入所された方には、訪室し声を掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中での会話や見守りで、一人ひとりの思いを察するようにしている。家族からも本人の思いを聞くようにしている。	本人から聞き取った情報をもとに、家族の話や、日ごろのケアで気付いた点などを補完して、意向を把握している。アセスメントは最初は頻回に行い、徐々に慣れた後は期間を延ばしている。初回は関係者とも協力して密度の高い働きかけをしており、注意深く観察している。アンケートを通じて意向を捉え、事業所全体で情報を共有している。	一人ひとりの情報をつまびらかに捉えているが、時間的な負担を軽減して、よりコンパクトにわかりやすくするために、センター方式の関わり方の見直しや、アセスメントの手法を全体で相談して改善していくことに期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際はご本人の馴染みの物を持ってきていただいている。今までの生活のペースを変えないように食事時間を遅くしている方もいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックをしている。毎日の生活の様子を観察し、心身の変化を見逃さないようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度職員会議を行っている。情報交換を行い、意見やアイデアを出しあっている。本人、家族にも相談し、ケアプランを作成している。	2年前からユニットを交えて、職員異動を流動的にしてからは、観察力が身につき、責任が身に着くようになった。事業所全体で一人一人の利用者に向きあえるようになり、当初混乱はあったが今は良好に機能している。情報の行き来がスムーズになりチームケアが機能している。毎月のモニタリングやケアプラン作成にも担当職員が積極的に関わり、センター方式をもとに、利用者の精神的なサポートの出来るプランを心がけている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケアプランに沿って記録している。大事な事は申し送りノートに記入して、全員が読むようにし情報を共有している。ケアプランにも反映させている。		

H25.A自己評価(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合が悪い時は、病院の付き添いを行っている。入居者の希望があれば、めぐみの携帯電話で、直接家族と話をして頂いている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区の文化祭に参加したり、近所の保育園と定期的に交流している。伊都オカリナ愛好会の慰問や家族のアコーディオン演奏も楽しみにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に受診してもらっている。かかりつけ医がいない時は病院を紹介したり、家族受診が困難な方は往診できる病院を紹介している。	受診は基本的には家族が行っているが、提携医の場合は月2回往診されている。必要の際は通院同行したり、緊急時などは通院介助も行っている。毎回、受診時には家族と情報を共有し、医師への報告として手紙を添えることもある。	緊急時対応に関して、利用者・家族などと、改めて対応の方法などを話し合い、説明や理解を得ていくことが望まれる。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に常に報告、相談し家族への報告、受診を早急に出来る様対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、面会に行き病院との情報交換を行っている。家族とも、密に連絡を取り早期退院が出来るよう働きかけている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「急変及び重度化した場合の意向」を記入してもらっている。状態の変化や入院された時はその都度話し合っている。	事業所の指針を定め、入居時に説明をした上で、意向の把握をしており、状況が変わった際にも改めて同意を取り交わしている。今までに対象となる事例はないが、看取りの希望があれば受け入れていく方針であり、医療に関しての勉強会や研修も行っている。併設の老健にはAEDも設置されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員室に急変時対応のマニュアルを掲示している。毎年、勉強会に取り入れ確認を行っている。		

H25.A自己評価(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に一度、避難訓練を行なっている。年に1度は、消防署の立会いで行い、隣接する老健職員に参加してもらっている。マニュアルを職員室に掲示し、毎朝避難誘導マニュアルを唱和している。	自治会とは防災協定書を取り交わしており、非常時には相互協力を行う体制が作られ、地域の避難所として受け入れもしていく計画である。夜間想定訓練も行い、毎朝避難誘導マニュアルを唱和して、非常時の行動を徹底している。運営推進会議と同日に避難訓練をして、家族に参加してもらったりもしている。防災設備も完備し、備蓄物も3日分は確保されていた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉掛けや対応を行なっている。プライバシー保護について勉強会を行っている。	入居者それぞれにあった言葉かけを心がけており、相手との信頼関係の上で、方言を交えた話しかけなどを行っている。接遇やコミュニケーションについての研修などは外部講師を招いても行っており、プライバシー保護なども含めて、日ごろのケアにも気を配っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で一人ひとりの思いを聞き取り、飲み物の選択や入浴時間等、自己決定できるような声掛けを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態、様子に合わせて一人ひとりのペースを大切にしている。朝ゆっくりと起きてこられる方や、昼寝やTVを見られたり、台所の手伝いをされたりしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選べる方は、好みの服を着ていただいている。選べない方は、季節やその方に合うような服を考慮しておしゃれが出来るように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂で調理を行い、旬の食材を使い、季節に合った好まれる献立を考えている。もやしの根切、いりこの頭とり、餃子包みなどして頂いている。	メニューや食材は業者の配達があり、栄養士による栄養管理がなされている。調理は職員が行い、盛り付けや配膳下膳など手伝えることは利用者が行う。調理レクや、誕生日などは利用者と職員の手作りでケーキなどを作っている。家族の差し入れや、菜園の収穫など旬のものをあつかって食事を楽しんでいた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の栄養士がメニューを作成し、職員が入居者の好みに合うよう見直しを行っている。食事量のチェックを行い、一人ひとりに合わせた量、形態に配慮している。水分摂取の声掛けを行っている。		

H25.A自己評価(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕の口腔ケアの声かけ、見守り、介助等、一人ひとりに合わせた支援を行っている。義歯の方は定期的に洗浄剤を使用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、職員が把握している。定時の声かけやトイレ誘導・トイレ使用時の見守りなど、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	排泄のチェックをすることで、職員全体でそれぞれのパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。自立に向けた支援を続け、失敗が少なくなったり、状態が改善した利用者もいた。気付いたことや、申し送りやミニカンファで話しあい、時系列で管理することで、流れや便秘などの不調もわかるようになっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、体操に腹筋の運動を取り入れたり、牛乳を飲んでいただいている。主治医に相談し、下剤で調整している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月水金と決まっている。時間帯の希望がある方には、それに合わせた入浴をしていただいている。個人の状態に合わせた声かけを行っている。	各ユニットごとに週3回の入浴で、時間帯や順番は希望に応じて柔軟に対応しており、浴槽の湯は適宜、溜め流しており清潔を保っている。冬場には柚湯にしたり、入浴を楽しんでい、ゆっくり入りたい希望があれば体調により対応もしている。拒否の際も無理強いはせず、清拭などで保清し、清潔にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を設けている。居室や食堂のソファで休まれたりされている。その日の様子に合わせて休息の声かけを行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書を保管している。その方の状況に合わせて服薬介助を行っている。薬の変更や新しい薬が処方された時は、症状の変化に気をつけている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗いやテーブル拭き、洗濯物たたみなど、御手伝いの役割を持っていただいている。時代劇や韓流ドラマを楽しみにされている方もいる。		



H25.A自己評価(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩など、出来るだけ外に出るよう努めている。初詣や桜の花見、クリスマスイルミネーションの見学に行っている。年に2回、バスハイクを予定している。	年に2回程度はバスハイクによって外食したり、文化祭などの地域行事やお祭りの出店などに行っている。個別での外食や喫茶なども希望があれば対応し、必要であれば家族とも協力している。年間を通して定期的な外出行事は2カ月程度で開かれている。日常的なドライブや外出などは多く、気軽に外の空気に触れている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は所持されている。お金を使用する機会は少ないが、所持する事で安心されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話を設置している。自分で掛けられない方は介助している。又、めぐみの携帯で家族と話していただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物やお花を飾り楽しんでいただいている。温度や照明は状況に合わせて、その都度調整している。	リビングの南向きに面した窓は広く、明るい日差しが差し込んでおり、高い天井と相まって非常に開放的である。行事の写真にはそれぞれ吹き出しやコメントが添えられ、当日の楽しそうな様子が伝わってくるようである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係により、席の配置を考慮したり、長椅子を利用したり居心地のよい環境作りをしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていたベッドや布団、家具などを持ってきていただいている。安らげる居室作りを心掛けている。	居室の入り口には木製の表札が飾られており、全室鏡つきの洗面台が備え付けられている。和室と洋室があり、畳敷きの部屋では窓に障子がついて、日差しを柔らかく遮り、おちついた色合いの壁紙とあいまって、家庭的な雰囲気で休むことが出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、手すりも設置している。トイレの場所や名前を大きく掲示したり工夫している。		